

PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第38号
2022年11月25日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

「2022 ぎふ へいわのつどい」に参加して

世話人 問山尚義

先日11月3日、「2022 ぎふ へいわのつどい」に参加してきました。フォトジャーナリスト安田菜津紀さんを迎えるとあって、岐阜市文化センター小劇場は会場いっぱい500人参加の盛況ぶりでした。例年使用している市民会館ならもっと多くの人に聴いてもらえたと思いますが、改修工事の為やむなく文化センターになったとのことです。

安田さんの講演の他にも、琉球民謡の舞踊と三線の演奏が沖縄岐阜県人会の皆さんによって演じられました。



琉球舞踊（四ツ竹）岐阜、沖縄県人会の皆さん

安田さんはテレビでもおなじみの方で、世界の紛争地や東日本大震災の被災地を巡ってレポートを届けています。

安田さんのお話は淀みなく流暢、抽象的な理念の押しつけは無く、写真とセットで全てが具体的で分かりやすい内容でした。いくつか印象に残った話を紹介すると

※報道の量の差が支援の差になってしまう。ウクライナ報道の陰でシリアなどが忘れ去られてしまう。

※3. 11に陸前高田で被災した安田さんの義母のつながりで仮設住宅を訪れた際に、安田さんのシリアの話がきっかけで、仮設住宅で思いがけなくシリア難民支援が始まった。

※中東の人々の中には日本を「戦争を仕掛けない国」との認識もあり、握手を求められた。

「9条ブランド」が生きている。

※シリアの内戦で片足を失った少女が、戦争をするおとなのことを「大きい人」と呼んだことが印象的だったと話されました。おとなの起こした戦争のツケを子供が払わされている。



お話しする
安田さん

尚後日、安田さんが主宰するNPO法人に、少額ですが寄付をさせて頂きましたところ、自宅にスタッフの方からお礼の電話が入りました。心配りを感じた次第です。

- 当日は写真撮影禁止であったため実行委員会から配信された写真を使いました。
- 安田さんの講演を収録したDVDを世話人会で購入しました。ご希望の方にお貸しします。

町内烏江



戦後は続くよ どこまでも



「彰元さんのつどい」(真宗大谷派大垣教区主催)を開催しました!

報告：佐竹 哲(世話人)

10月21日、真宗大谷派・大垣教務所にて「彰元さんのつどい」が開催されました。以前にも紹介しましたが、彰元さんこと竹中彰元は、1937年、日中戦争が開戦、各地で出征兵士が増加する頃に公然と「戦争は罪悪である」、「この度の事変について侵略の様に考える」と発言して逮捕、有罪判決を受けました。真宗大谷派大垣教区では竹中の命日に合わせて毎年、このつどいを開催しております。私は、今回もスタッフとして関わっており、この紙面を借りて「彰元さんのつどい」の報告をさせていただきます。

今年は、沖縄県宜野湾市普天間出身の上運天有二さん(名古屋市在住)をお招きして、「沖縄本土復帰50年 三線の音色とともに語る」と題して三線の弾き語りを交えてお話いただきました。

先ず、沖縄は、かつて1429年に尚巴志が統一して以来、一つの国、琉球王国であったことを語られます。その国は、いくさはもう御免だと武器を放棄、ちょうどその頃に中国の南方から三線(さんしん)が伝わり、それが北上して三味線(しゃみせん)になったといわれています。上運天さんは高校卒業後に愛知県に就職、ホームシックになり、その時にお父さんに三線を送ってもらい、愛知県で初めて三線を弾くようになったとのことです。

続いて後の沖縄の歴史についても話されます。1609年、薩摩による侵略、明治になると明治政府による琉球処分(強引な廃藩置県)、太平洋戦争が始まり、1945年に沖縄戦、敗戦後は米軍の統治下に置かれるという苦難の歴史にも触れられます。その苦難の歴史、その時代に三線を奏で歌われた沖縄民謡を弾き語ってくれました。興味深いのは、昭和12年頃に作られた歌「安里屋ゆんた」(あさどやユンタ)の歌詞に「またはりぬちんだらかぬしゃまよ」という方言があります。「また会いましょう、愛する人よ」という意味なのですが、沖縄に駐留した日本軍が「わしゃ死んだら神さまよ」と歌ったといわれています。ただ、沖縄戦のことは、大人たちはしゃべってくれなかったと話されます。あまりにもつらい記憶で、子らに伝えられなかったのでしょうか。

上運天さんの幼少期は、沖縄は米軍の統治下であり、その頃の思い出についても語ってくれました。当時は、畑を掘り起こせばライフルの弾が出てくる、近所の洞窟(ガマ)には人骨がたくさんあったと語られます。そして、基地のフェンスに囲まれて生活してきたと言います。当時はベトナム戦争の最中、嘉手納基地からB52が飛んで行ったのです。普天間からは軍用ヘリコプターが編隊を組んで10機ぐらいがまとめて飛ぶので、その爆音はものすごく、しかも早朝5時とかに飛んでいくから、それでいつも目が覚めたのです。他にも米兵に関する苦い思い出等、たくさん語っていただきました。とにかく上運天さんの平和への思いは強く、合わせて沖縄を愛する心にも感銘を受けました。



上運天さん

お互いを尊重する人間関係が、暴力や戦争を無くし、平和をつくる。

「9条の会・おおがき 18周年総会と記念講演」に行ってきました。

世話人 中野一美

記念講演「ジェンダーと憲法」

名古屋南部法律事務所 田巻紘子弁護士

1 ジェンダーとは、社会的、文化的意味合いから見た男女の性差別。産まれた時から日常的に当たり前と刷り込まれている男女差別。男女平等をうたう日本国憲法ができて75年たった今でも「男は外で仕事女は家事、育児、介護」といった家父長的家族観が自民党中心の政治では主流です。そのため「ジェンダー・ギャップ指数 2022」では日本は146ヶ国中116位。先進国の中で最低レベル、アジアでも韓国や中国、アセアン諸国より低い結果でした。最近のニュースでは、自民党の多くの閣僚や議員が、統一教会の「憲法改定や反ジェンダー平等」の推薦確認書に署名していたことが発覚しています。



2 正当に評価されない”ケア”が影響する男女賃金格差と職場慣行。正社員とは「企業への全面奉仕を求められる」存在。他者のケアの責任を担う女性は、職場では半人前となってしまう、賃金は安くて当然。デイケアの送迎の時間に自宅にいないといけない。保育所、学童の迎への時間に間に合わなければならない。子供が熱を出したら休まなければならない。そして自ら選ぶか、そうさせられるか、非正規雇用。正規雇用の場合も、女性は他者へのケアの責任を負うために、転居、転勤、単身赴任はできない等の制約があり幹部職になれないなどの不利益をこうむっています。

3 政治は”ケア”にどう向き合ってきたか、あるいは無視してきたか。家庭は、これまで通り、企業にとっても国家にとっても都合のよい存在であって欲しい。性的役割分担、男尊女卑を前提とした家父長的家族制度を維持し、かつ自己責任を前提とする「自助」の担い手としての新自由主義的な家族像を実現するための、国家による家族に対する介入が続いている。家父長制家族を維持するための戸籍制度（夫婦同姓）への頑迷なまでの執着。「女の仕事は半人前」を後押しする扶養制度・・・扶養税額控除年収103万円の壁。社会保険被扶養者年収130万円の壁、等々。

4 戦前の家制度は戦争をする大日本帝国を支えた制度の一つでした。その反省から日本国憲法第24条では1項 婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。2項 配偶者の選択、財産権・・・中略・・・その他の事項に関しては、法律は個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。・・・と定められています。

5 戦争のない平和な世界をつくるために大事なことは、個人一人ひとりが、暴力の行使や支配、暴力による解決を良しとする人にならないことです。有形無形の暴力による支配関係に基づく権威主義的な家族は、そのような個人を育てる場にはなりません。憲法24条に定められた家族像は、個人の尊厳と平等に基づき、暴力や差別に組みしめない人を育て、軍国主義を支える狭い愛国心や嫌韓、嫌中などをあおる国家には従順には従わない人を育てる場なのです。平和憲法9条を守る人を育てるのが、憲法24条なのです。



◇今後の活動予定と各団体のイベント予定◇

★ぎふコラボ友の会 総会

日時：12月3日（土）午後2時～

場所：ソフトピアジャパン1F セミナーホール

内容：友の会40年を振り返って、笹田弁護士のお話

主催：ぎふコラボ友の会

編集後記

朝夕はめっきり冷え込み冬の訪れを感じさせる今日この頃となってきました。10月11月は各団体の企画が目白押し、お寺や神社の行事も入ってきてタイトな日程の中、自主企画は見送りとなりました。世話人会では引き続き、対面活動の再開をどうするかで悩みの多い会合となりましたが、とりあえず来年の総会だけは何とか実施しようというモードで臨んでいます。

本会報も引き続き他団体の行事のレポートになりました。来年は総会以外でも自前の企画が告知できるようにしていきたいと思います。

そんな中でも現政権の目を覆わんばかりの劣化ぶりについては世話人会の中でも話題になります。やはりというべきか寺田総務大臣の辞任（更迭）、危ない大臣はまだいるようです。更に副大臣や政務官まで含めるとアウトな人材がぞろぞろ。身ぎれいな人材を厳選したら内閣が組めないのか、そこまで政権与党が劣化してしまったと言うべきか。

経済学者の金子勝氏が今の自民党のことを「世襲の愚者の天国」と揶揄したのを思い出します。そう言えば同氏は今の経団連のことを「サラリーマン社長のサロン」とも言っていました。座布団一枚！

世話人 問山尚義



「森の妖精」エナガ

秋になってエナガが庭にやってくるようになりました。朝日が当たるころ、梅の木にやってきて枝から枝へ忙しく動き回って、やがて去ってゆきます。

問山



11月8日午後8時半ごろの
皆既月食のようす

惑星（天王星）食との同時進行は442年ぶりとのこと。

秋から冬にかけては夜空も澄んで星も見やすくなります。

まずは圧倒的な存在感のオリオン座、夜半に東の空に現れて夜明け前に西の山に沈んでゆきます。そのオリオン座に絡んで「冬の大三角」が、更に視野を広げると、「冬のダイヤモンド」が、更にその外にはプレアデス星団（昴）が見えてきます。

問山

連絡先

「9条の会・養老」世話人

090-9183-0444 中野一美（代表）

090-9894-0444 佐竹 哲

090-2348-0719 問山尚義

090-8733-0090 禿 憲正

fax（問山）

0584-71-8746

E-mail（問山）

toiyama@ninus.ocn.ne.jp